

独立行政法人国立病院機構仙台医療センター

地域医療連携室



●発行日／令和8年6月●発行／仙台医療センター 仙台市宮城野区宮城野2-11-12 TEL022-293-1111●URL／<https://www.nsmc.hosp.go.jp>



独立行政法人国立病院機構
仙台医療センター

院長 江面 正幸

ご挨拶

地域医療連携室は、連携登録医を始めとする地域の先生と病院との橋渡しということで非常に重要なセクションです。この地域医療連携室の業務に昨年から新たに、オンライン仮予約の本予約化、という業務が加わりました。もっともこの業務名は、私が勝手にイメージして命名したものであり、本来の業務名ではありません。なんのこともを説明します。

当院では昨年度、外来受診のオンライン予約を開始しました。まだ一部の診療科の一部の枠ですが、これにより、患者さん自身がPCやスマホで外来予約をできるようになりました。予約操作は、休日や夜間など任意の時間にできます。外来につきそってもらってお嫁さんと都合を合わせるのに夜間に予約を取るといった場合に対応します。と言ってもセキュリティの問題から、患者さんが直接電子カルテ上の診察枠を操作できるわけではありません。実際には、オンライン予約のページに行きつくと、予約可能な枠がいくつか提示されており、患者さんはその中から第3希望までをリクエストすることになります。提示される枠は5日後以降であり、今週中とか本日中という扱いはしていません。あくまで病状の安定している予定受診の方を想定しています。このリクエストは地域医療連携室でその後の操作をしないとちゃんとした予約として成立しません。地域医療連携室ではそのリクエストをみて、実際にそれが可能かどうか、例えば休日に来たリクエストが重複しているとか、担当医が自分でその枠を埋めてしまっているとかがありえますので、そこを最終チェックして正式な予約枠へと変更するわけです。これが「オンライン仮予約の本予約化」ということです。今までは電話やファックスでやっていた部分をオンラインに変更したというイメージですが、アナログな部分は地域医療連携室の負担になるといった方法です。ただ、これにより紹介を仲介していただく連携登録医の先生の待ち時間を減らす、ということには大いに貢献できるのではないかと思います。今後順次、対象診療科を増加し、対象枠も拡大する予定です。

このオンライン予約については、連携登録医の先生方の施設訪問や「夕涼の会」などでの意見交換の際にお寄せいただいた意見を実現したものです。本年の「夕涼の会」は、7月22日を予定しております。また「夕涼の会」で有益なご示唆をいただき、当院の改善にご協力いただければと思います。「夕涼の会」で皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

仙台医療センター基本理念

最善の医療を尽くして社会に貢献します。
患者さんにやさしく働きがいのある病院を目指します。

〔基本方針〕

- 1 医療の質の継続的改善
- 2 地域との医療連携と情報共有
- 3 社会のニーズに対応した病院経営
- 4 質の高い医療従事者の育成
- 5 職員の働く環境の改善
- 6 臨床研究の活性化

目次

※院長挨拶	1
※各科紹介 眼科	2
※新任部長・医長紹介	3～4
※新登録医紹介	4
※編集後記	4



各科紹介

眼

科

眼科医長 針谷 威寛

4月より眼科の新任医長を拝命いたしました、針谷威寛と申します。岩手医科大学を2006年に卒業後、東北大学病院にて10年以上にわたり研鑽を積み、角膜外来のチーフおよび診断医として診療に従事してまいりました。専門分野は角膜および網膜であり、角膜移植をはじめとする眼表面疾患の診断・治療、ならびに網膜剥離などの網膜疾患に対する外科的治療を得意としております。角膜と網膜の両領域を専門とする眼科医は全国的にも多くはなく、それぞれの専門性を横断的に生かした診療を提供できる点が当科の強みであると考えております。

当院眼科はこれまで野呂先生のもと、小児眼科（斜視・弱視）、眼瞼疾患（眼瞼下垂・眼瞼内反）、神経眼科（視神経炎など）を中心に診療を行ってまいりました。今年度より医長交代に伴い、従来の診療体制を維持しつつ、新たに角膜および網膜領域の診療機能を大幅に強化し、より幅広い疾患に対応できる体制へと発展しております。総合病院としての強みを生かし、多職種連携による包括的な眼科医療の提供を目指しております。

まず角膜分野では、角膜移植手術を新たに立ち上げました。角膜移植には全層角膜移植、角膜内皮移植、角膜輪部移植など複数の術式が存在しますが、当院ではそれらすべてに対応可能な体制を整えております。昨年度途中から開始し、これまでに6例の角膜移植手術を施行いたしました。また、帯状角膜変性に対するEDTAキレート療法や、若年者の翼状片に対するマイトマイシン併用手術についても、倫理委員会承認のもと実施可能となっております。さらに、感染性角膜炎に対しては検査部と連携し、角膜擦過物の鏡検・培養検査を導入し、原因菌の同定に基づいた的確な治療を行う体制を整備いたしました。加えて、治療用コンタクトレンズを患者様ごとに適切に選択・処方できる体制を構築しており、角膜上皮障害や難治性角膜疾患への対応力も向上しております。これらにより、角膜疾患診療においては大学病院と比較しても遜色のない水準に到達していると考えております。

次に網膜分野では、網膜硝子体手術を本格的に開始いたしました。硝子体切除術（PPV）に加え、冷凍凝固術（クライオ）、強膜バックリング手術など幅広い術式に対応しております。さらに、硝子体手術とサークリングの併用手術や、パーフルオロカーボン液、シリコンオイルを使用する複雑・難治症例にも対応可能な体制を整えております。昨年度は43件の網膜硝子体手術を施行し、安定した治療成績を得ております。また、手術のみならず外来診療においても抗VEGF硝子体内注射を施行できる体制を整備し、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症などに対する薬物療法にも



積極的に取り組んでおります。今後はさらに症例数の増加とともに、より高度な網膜診療の提供を目指してまいります。

白内障手術につきましても、引き続き当科の基幹医療として積極的に取り組んでおります。当院では安全性を最優先に考え、現在は1泊2日の入院による手術を基本としておりますが、昨年度より2泊3日での両眼同時手術プランを導入し、患者様の利便性向上にも配慮しております。手術件数は令和6年度の164件から令和7年度には448件と大幅に増加しており、地域からのニーズの高まりを実感しております。今後は診療報酬改定の動向も踏まえ、日帰り手術の導入についても検討しており、スタッフ体制や院内システムの整備を進めた上で、準備が整い次第ご案内する予定です。

地域医療連携におきましては、紹介予約体制の見直しを行い、通常紹介枠に加えて1か月以内の診察が必要な症例に対応する準緊急枠を新設いたしました。これにより、紹介患者様の待機期間短縮と適切なトリアージが可能となっております。また、緊急症例につきましても随時受け入れておりますので、地域医療連携室を通じてご相談いただければ迅速に対応いたします。一方で、視能訓練士をはじめとする外来検査スタッフの不足により、一部予約待機が生じている現状もございます。今後は人員体制の強化を図りながら、段階的に予約枠の拡充を進めてまいります。

診療体制としては、これまで当科を牽引されてきた野呂先生が令和9年3月まで診療を継続予定であり、斜視手術を含む小児眼科領域についても引き続き対応可能です。また本年度より藤岡俊亮先生が赴任し、小児眼科分野のさらなる充実を図っております。従来の強みに加え、新たな専門領域を融合させることで、より総合的で質の高い眼科診療を提供できる体制となっております。

新任医長として、これまで培ってきた知識と技術を最大限に生かし、地域の患者様に信頼される眼科医療を提供していきたいと考えております。その実現のためには、紹介医の先生方との密接な連携が不可欠であり、また視能訓練士、看護師、医師事務作業補助者をはじめとする多職種の協力が重要です。チーム医療を推進しながら診療体制のさらなる向上に努め、仙台医療センター眼科の発展に寄与してまいります。

末筆ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

新任部長・医長紹介



耳鼻咽喉科・頭頸部外科 総合感覚器科部長

たてだ まさる
館田 勝

- 医学部卒業年…1991年
- 出身地…宮城県
- 出身大学…日本大学
- 専門領域…耳鼻咽喉科
頭頸部外科

●抱負

2011年より仙台医療センターに勤務し、地域連携室長、情報管理室長を併任しております。耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域では、難聴と認知症の関連、難治性副鼻腔炎に対する治療戦略、頭頸部癌に対する手術・薬物療法など治療方針が多様化・複雑化しております。最新の医療を提供あるいは連携を通じて案内して参ります。地域連携室では地域の先生方との円滑な紹介、逆紹介を模索して参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。



感染症内科部長

いむら じゅんじ
今村 淳治

- 医学部卒業年…2003年
- 出身地…福岡県太宰府市
- 出身大学…東北大学
- 専門領域…HIV感染症

●抱負

岩手県立胆沢病院にて初期研修を修了後、東北大学大学院での研鑽を経て、2010年より名古屋医療センターHIV/エイズ診療に従事してまいりました。2018年10月からは仙台医療センター感染症内科に異動し、2026年4月に感染症内科部長を拝命しております。現在、感染症内科は、診療、教育、研究、院外からの相談を中心に業務を行っております。また、東北地方の薬害エイズ被害者を対象とした救済医療・長期療養支援にも取り組んでいます。適切に治療を行えば、HIV・エイズは死の病ではなく、日常生活で感染しません。今後もHIV診療を中心に、地域医療への貢献に努めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。



ウイルスセンター長

ふじ い ゆたか
藤井 豊

- 医学部卒業年…1990年
- 出身地…広島県福山市
- 出身大学…広島大学
- 専門領域…ウイルス学

●抱負

この3月まで香川大学医学部で主に看護学科の学生、大学院生の教育に携わってきました。基礎のウイルス学が専門で、A型インフルエンザウイルスの8つに分節した遺伝子が1つのウイルス粒子に入るメカニズムを明らかにする研究をしていました。当院ウイルスセンターでは、ウイルス疾患の疫学調査という臨床ウイルス学研究のほか、基礎ウイルス学の研究も進めていきたいと考えています。今後ともよろしくお願いいたします。



腎臓内科医長

あき う まほ
秋保 真穂

- 医学部卒業年…2011年
- 出身地…宮城県仙台市
- 出身大学…秋田大学
- 専門領域…腎臓・透析
アフェレシス

●抱負

大崎市民病院で研修後、東北大学腎臓・高血圧内科へ入局し、仙台市立病院、JCHO仙台病院、東北大学病院血液浄化療法部で勤務し、特に透析・アフェレシスの診療と研究に従事してまいりました。2025年4月に着任し、本年4月より医長を拝命しました。今後は地域の先生方との連携を一層深め、迅速かつ丁寧な診療を通じて腎疾患診療に貢献できるよう尽力してまいります。ご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。



循環器内科医長

ふくだ こうじ
福田 浩二

- 医学部卒業年…1994年
- 出身地…福岡県
- 出身大学…東北大学
- 専門領域…循環器、不整脈

●抱負

岩手県立中央病院で初期・後期研修後、東北大学第一内科に入局。学位取得後、Vanderbilt大学 (Nashville, TN, USA)、東北大学病院、国際医療福祉大学病院で勤務し、今年度4月1日付けで当院に着任しました。現在まで循環器内科、特に不整脈診療に携わってきました。高い専門性をもち、安心・安全な医療提供を行い、皆様に当院を選んで良かったと思ってもらえる診療を常に心がけております。これからはよろしくお願い申し上げます。



呼吸器外科医長

おかざき としまさ
岡崎 敏昌

- 医学部卒業年…2007年
- 出身地…福島県福島市
- 出身大学…東北大学
- 専門領域…肺がん
胸腔鏡手術

●抱負

山形県立中央病院で初期研修修了後、同院での後期研修、がん研有明病院での勤務を経て東北大学呼吸器外科に入局しました。入局後は宮城県立がんセンター、大崎市民病院でがん研での経験を生かした胸腔鏡手術の導入・実施を行ってきました。当科でも元来低侵襲手術を行ってきたので方針を踏襲しながら、地域の先生方と連携して、質の高い医療の提供を目指してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



小児外科医長

おかむら あつし
岡村 敦

- 医学部卒業年…2005年
- 出身地…長野県安曇野市
- 出身大学…秋田大学
- 専門領域…小児外科一般

●抱負

長らく勤務された前任医師の退職にともない、2026年4月に赴任いたしました。これまで勤務した、東北大学病院や宮城県立こども病院における高度専門医療、あるいは山形県立中央病院や仙台赤十字病院における一般小児外科医療、それぞれの経験を活かして診療にあたります。小児外科医1名体制ではありますが、小児科、外科など他科との連携も図りながら適切な医療提供に努めますので、よろしくお願いいたします。



眼科医長

はりや たけひろ
針谷 威寛

- 医学部卒業年…2006年
- 出身地…北海道札幌市
- 出身大学…岩手医科大学
- 専門領域…角膜および網膜
(角膜移植手術、網膜硝子体手術など)

●抱負

これまで培ってきた角膜および網膜の専門的知識と手術技術を生かし、質の高い医療を提供してまいります。地域の先生方や多職種と連携しながら、安全で信頼される診療体制の構築に努め、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供できるよう尽力いたします。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



病理診断科医長

いたみ ひろえ
伊丹 弘恵

- 医学部卒業年…2005年
- 出身地…大阪府高槻市
- 出身大学…神戸大学
- 専門領域…腎病理

●抱負

これまで主に関西の病院で病理診断の仕事に関わって参りましたが、本年3月に当院に着任し、4月に病理診断科医長を拝命致しました。当院では各診療科から提出される様々な臓器検体の炎症から腫瘍まで幅広い疾患の病理組織診断・細胞診断を行っております。地域医療機関との連携に関しましては、他病院と当院との間で契約を結び院外の病理組織診断、細胞診断、病理解剖を支援させていただいております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

新登録医紹介

(令和8年4月30日現在の登録医数 1,674名)

氏名	住所	所属名	専攻
岩渕健太郎	福島県相馬郡新地町駅前2丁目10番地	医療法人創研究会 新地クリニック	精神科・心療内科・内科
星 史彦	宮城野区榴岡1丁目2-13 エドパシ仙台第2ビル4F	仙台駅前ほし呼吸器クリニック	呼吸器内科・呼吸器外科・内科
大内謙太郎	若林区なないろの里1-19-4 アンダンチメディカルモール2F	なないろの里皮膚科	皮膚科
田村 慧人	青葉区国分町3丁目8-1 勾当台ビル4階	勾当台夕方内科クリニック	内科全般
鈴木 悠哉	宮城野区原町1-3-50 ヒルトップ宮城野1F	原町歯科医院	歯科・口腔外科・小児歯科・インプラント
前山 哲朗	太白区鹿野3丁目25-21	たんばろレディースクリニック仙台長町	婦人科
益子 茂人	岩沼市中央1丁目3-12	医療法人五葉会山本クリニック	内科・腎臓内科
北谷 智彦	宮城野区五輪2丁目9-10	仙台原町眼科	眼科

編集後記

早いもので2026年も半年が経過し、折り返し地点を迎えました。年初めに「今年は何か新しいことを始めてみよう」と考えた方も多いかもしれません。皆様の進捗状況はいかがでしょう？

私事ですが、今年から「歩く」ことを始めました。例えば、近場の用事は歩く、一駅分は歩く等、意識して歩く機会を作るよう心掛けています。普段、車や自転車で見落とすことの多い、街並みや景観を眺めながら歩いています。時には、家族と一緒に歩いてコミュニケーションを取ったり、十数年ぶりに歩道橋を渡ったり、知らなかったお店を発見したりと、ちょっとした有意義な時間となっています。歩くことで健康や体力維持の効果も期待しつつ、安定した仕事に結び付けられるよう、今後も一歩ずつ継続していきたいと思っています。(T・S)

仙台医療センター地域医療連携室より 編集委員

新倉 仁 舘田 勝 犬上 直美 阿部 直美 沖 梨沙

小倉 美緒 工藤 千春 須田 剛 加藤 知巳 菅野 龍二 峯田 真衣 岩渕 由香

<地域医療連携室 直通電話 022-293-1118>